

市民と議会との語る会実施報告書

日	時	令和5年5月29日(月)
会	場	あいぱーく今立 中会議室
出席議員		安立委員長、土田副委員長、近藤委員、清水委員、大久保恵委員、川崎委員
参加者		越前福井森林組合5名(男性:5名、女性:0名)
開会挨拶・司会・報告・記録		挨拶:安立委員長 司会:安立委員長 記録:土田信義
概要		越前福井森林組合の説明(資料に沿って説明) ・越前福井森林組合の概要について ・森林組合で取り組んでいる事業概要 ・森林組合の課題 1 間伐から主伐への移行・・・再造林が進まない 2 獣害対策・・・クマ・シカ被害の拡大 3 人材不足・・・高齢化、募集しても来ない
意見交換		土田委員 : 今抱えている課題に対応するため、今年度、「森林林業マスタープラン」の策定が予定されているが、問題解決のためどのようなことを計画に挙げればいいのか。 森林組合 : 木材の価格が低迷し、境界が分からない状況が増えている。森林整備を進めるうえでも課題となっている。不在地主も増えている。林野庁では、間伐しながら境界を定めていくことを進めているが、単価が安い。この辺を高くするのが課題。 間伐材生産が進むと、県の政策で、それを処理する木材生産に資する工場が必要になってくる。生産が進めば大型工場の誘致をお願いしたい。 土田委員 : 輸入材が高騰している中で国産材に期待が持てるのでは。間伐から主伐へ儲かる林業へということで説明頂いたが、そのうえで、地権者を調べていこうとするとどのような手立てが必要なのか、具体的にどのようにすればコストが安く、分かりやすく進められるか。 森林組合 : 県で航空レーザー計測を公図と照らし合わせて行うことで、山に行かなくても安価に境界を特定できると考えている。現在、県

下全域では飛行機は飛んでいなくて、越前福井管内では、池田町は調査済み、越前市、鯖江市、越前町は「これから」で、今は森林環境譲与税を活用し、造林補助に掛からないところで小規模森林間伐を行うなどで対応している。

土田委員： 山を治めることは地権者に負担をかけることになると思うが、基本的には公共事業で対応するしかないのかもしれない。公共事業ばかりだと不満も出ると思うので、うまく財源を活用して、所有者も負担しているというように見せて、きちんと森林整備にあたるマスタープランにするといい。

もう一つは公益性が高いのは最近大雨豪雨の自然災害が多くなっている中で、山がかつては、「緩衝帯」の役割を果たしていたが、今は、豪雪で折れた木が、川を塞いで災害を増やしているのでは。きちんと山を管理する必要がある。まさにこれは公的な役割で進めなければならない。そういうところに交付金を入れるべきと明確にすべきでは。

地権者に任せていても進まない。きちんと役割を明確にすることが大事なのでは。そういったことを一度にはできないので、順番にマスタープランの中で現わすと市民の理解も得られるのでは。

森林環境譲与税の積み立てが増えているだけでもっと活用することを考えるべき。

これまで、林業に積極的に関わってこなかった中で、専門家の立場でご提案をしていただけるとありがたい。

森林組合： 適正な森林整備を行うことで災害を防ぐと考えている。間伐をする、崩れにくい作業道を整備し管理することが必要だが、作業道は集落で管理できない。5年目、10年目の間伐のために補助していってほしい。

森林があるところは限界集落になりつつある。森林を整備することで集落が生きてくる。少しの補助で、住民が稼げるような取り組みになるよう自伐林家の養成もお願いしたい。

安立委員長： 森林整備についてどのように行っているか。

森林組合： 国県補助で85%、市の上乗せで8%。残りを地元で負担いただくが、搬出した間伐材の売り上げで地元負担なしで行っている。

地元では、獣害ネットも巻いてもらえるということで同意を得て、

事業を進めさせてもらっている。

間伐材を出すのに道の整備は必須なので、作業道を先に整備し、間伐して、最終的に獣害ネットを巻いて、セットとして整備している。

PRが不足しているので、組合としてももっと打ち出していきたい。

安立委員長：このような取り組みもプランの中に盛り込んでどうか。市の補助を増やすとか。

森林組合：越前市は急峻な山がないので、間伐しながらやっていくには魅力的なところと思います。

大久保委員：職員の人数は減っているか。

森林組合：多少は減ったが、3割は再任用している。ほとんど横ばいではあるが、将来を考えると事務系で30人ぐらい、現場もできる職員30名併せて60名が欲しいが経営状況もあるので、今が31人なので倍ぐらいが理想。平均年齢も40歳ぐらいにしたいが、これは目標であって、ハローワークに募集をかけてもなかなか来ない。

県では、エキスパートを育てるために林業カレッジを行っている。

今年、林業カレッジの卒業生を3人採用したが、なかなか続かない。途中で離職するなど人が定着しない。

管内で林業を専門にする事業体も増えている。

高性能林業機械も増えているが、人の力で切らなければならない場面もある。林業のところまで機械化が進んでいない。

大久保委員：給与の体系は、どのように決まるのか。

森林組合：現場作業は日給で、事務職員は月給制。

大久保委員：給料が上がったら人は来るか。

森林組合：福井型再造林では、年収500万円を目標としている。森林組合では目標年収400万円としているが、まだまだそこまでっていない。

大久保委員：若い人の雇用は増えているのか。

森林組合：都会の人が林業カレッジを卒業してくる場合があるが、今年は受講生が極端に少なく、取り合いになる。林業は直接自然相手の作業な

ので、なかなか難しい。

大久保委員： 林業は大事な仕事だと思うが、公的なお金がもっと入るといいと思う。

森林組合： 自治体が小さいときはきめ細かく対応してくれたが、大きくなるとやはり手が回らなくなることはあると思う。

大久保委員： 一般の方に課税されるのだからもっと山に目を向けてほしい。

森林組合： 予算は増えていない。単価がだんだん削られている。予算は一緒に、施工面積が以前の3倍になっている。

近藤委員： 福井の木材の「売り」はあるか。

森林組合： 相場の問題ではそんなに差はない。

管内で言えば池田の材はこの辺では高く売れるブランドとして評価されている。市場でも別に扱われている。

需要と供給のバランスの問題があって、いざ木を切っても使うところがないと売れない。

木造の家を在来工法で作るならだが、最近は基準が厳しいことから木造の家を作ることがなく、集成材の方を使うことが多くなっている。

そのような集成材を作る工場の誘致も考えてほしい。

今は大野市のグリーンパワー発電所のおかげでこれまで値が付かなかった材も5000円で引き取ってくれるようになった。(これまでベニヤになるものまでしか売れなかった。)

素材生産22,800 m<sup>3</sup>で、内訳 製材 57,000 m<sup>3</sup>、チップ11700 m<sup>3</sup>、合板用30,000 m<sup>3</sup>という状況。

安立議員： プランを作るときに現場の声を聴いて入れてほしい。

令和 年 月 日 越前市議会議長 様

産業建設委員会 委員長 安立 里美